

社団法人 日本補綴歯科学会 *Japan Prosthodontic Society*

発行人 平井敏博 編集 広報・社会連携委員会

〒 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630



## Letter for Members No.30 2008

<http://www.hotetsu.com/> 2008.10.10 発行

### 《コンテンツ》

学会誌が生まれ変わります ……………1	支部学術大会報告 ……………7
「2008 補綴歯科サマースクール in 別府」 開催される ……………2	関連学会案内 ……………9
受賞者の声 ……………4	写真公募！「補綴（ほてつ）シャッター チャンス！2008」 ……………12

## 学会誌が生まれ変わります

社団法人 日本補綴歯科学会  
理事長 平井敏博  
編集委員会委員長 志賀 博

日本補綴歯科学会は、2002年に英文誌 Prosthodontic Research & Practice (PRP) の発行を開始し、2006年からは、Medlineへの掲載とインパクトファクターの取得を目指して、年間4号の発行を行いました。編集委員会は、2006年と2007年の2年間にわたるPRPの年4号の定期的発行の実績を重ねたことから、Medlineへの掲載申請の時機が到来したと判断し、英文雑誌編集の専門業者であるElsevier出版にPRPのMedline申請の是非を伺いました。Elsevier出版からの回答は、以下の通りでした。

『過去2年間にわたり論文の体裁を整え、主に原著論文を一定数掲載して出版してきたことは評価できる。しかし、① Medlineの審査基準が2000年以降に厳格化してきていること、② 2006年の採択率が30%以下であること、③ 同一母体（同一学会）からの和文誌と英文誌の同時掲載は最近では難しくなっていること、などを鑑みると、PRPがMedlineに掲載される可能性

は低く、現在すでにMedlineに掲載されている日本補綴歯科学会雑誌（補綴誌）を英文誌へ変更することを推奨する』

本回答を受け、当初の目標である「インパクトファクターを獲得し、真の国際誌を創る」ことを具現化するための方策について、編集委員会ならびに委員長会で慎重に協議いたしました。その結果、『① 2008年は、すでにMedlineに掲載されている日本補綴歯科学会雑誌（補綴誌）にPRPを統合する方向で編集作業を行うこと、② 2009年からは補綴誌の雑誌名称を変更し、英文誌に移行させること、③ さらに、和文論文を掲載するための新和文誌を発刊すること』で意見の一致がみられました。この検討結果は、「平成19年度第2回理事会」および、「平成19年度臨時総会」で諮られ、承認を受けました。

この承認を受け、2008年中の学会誌について、補綴誌は、52巻2号から英語論文を含めて発行させていただきます。PRPは、すでに投稿されている方々に補綴誌とPRPへの掲載を問い合わせさせていただき、PRPへの掲載を希望された先生方の論文を7巻2号に掲載し、終刊とさせていただきます。

2009年からは、新英文誌として「Journal of Prosthodontic Research (略称名: J Prosthodont Res)」が発行されます。この英文誌は海外のElsevier出版から直接、会員の皆様に郵送されます。また、ElsevierのデータベースScienceDirect内に学会誌のホームページが開かれますので、会員の皆様は無料で閲覧することができます。なお投稿は、オンライン投稿となりますが、現在準備中であり、12月からの開始を予定しております。一方、和文論文を掲載する新学会誌として「日本補綴歯科学会誌(英文名: Annals of Japan Prosthodontic Society), 略称名: 「日補綴会誌」」が創刊されます。この新学会誌は、従来の補綴誌が和文論文に限定されていなかったことから、和英混交誌とさせていただきますので、英文論文

の投稿も可能です。また、この新学会誌には電子ジャーナル(日本補綴歯科学会誌 e-pub 版)が追加されます。これまで、雑誌作成のコストの面から依頼論文数を限定し、写真もモノクロにしてまいりましたが、電子ジャーナルでは、印刷経費がなくなりますので、多くの情報を会員の皆様に提供できるものと考えております。なお、電子ジャーナルには、依頼論文、臨床論文、支部学術大会の抄録等を掲載する予定であります。

会員の皆様におかれましては、このような経緯をご理解いただき、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、投稿を希望される方は、事前に学会事務局(TEL: 03-5940-5451)にお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

## 「2008 補綴歯科サマースクール in 別府」開催される

(社)日本補綴歯科学会は、学会のよき伝統を受け継ぐとともに、自らの研究、臨床を切り開き、補綴のみならず幅広い領域で世界に発信できる人材を必要としています。このたび、九州支部、中国・四国支部では、補綴歯科を専門とする高度専門医療人やその先端医療・研究を切り開く臨床系研究者を育成するための新たな企画として、「2008 補綴歯科サマースクール in 別府」を平成20年8月29、30日大分県別府市の「杉乃井ホテル」において開催致しました。

補綴歯科サマースクールは、学会の指導的立場の会員、学会、大学、医療現場で実質的な活動をしている中堅会員、そして未来を担う若手会員が、胸襟を開いて一堂に交流する場を持ち、過去、現在、未来の価値観を共有して科学を進めることを目的としています。今回は、研究計画法の習得・応用をめざしたワークショップを通じて交流したいと考え、「臨床研究をやってみよう!!」というテーマでスクールを開校しました。

スクール参加者は、グループ A: 春日明日香(九州大)、松香芳三(岡山大)、黒井隆太(岡山大)、川本真一郎(鹿児島大)、加地彰人(鹿児島大)、後藤まりえ(北海道大)、迫口賢之(鹿児島大)、楊 磊(福歯大)、兒玉直紀(岡山大)、グループ B: 磯田 桂(九州大)、前川賢治(岡山

大)、笈田育尚(岡山大)、丸山浩美(鹿児島大)、吉田恵子(新潟大)、白髭智子(岡山大)、遠藤寛(岩手医大)、森永健三(福歯大)、森本雄太(岡山大)、グループ C: 小倉絵美子(九州大)、山崎聖也(岡山大)、野田欣志(岡山大)、今井崎太一(鹿児島大)、川崎真依子(新潟大)、村原貞昭(鹿児島大)、神野洋平(九州大)、別府健介(福歯大)、柳田廣明(長崎大)の27名であり、陪席として平井敏博理事長、佐々木啓一副理事長、古谷野 潔副理事長のほか、川良美佐雄教授(日大松戸)、濱田泰三教授(東北大)、市川哲雄教授(徳島大)、窪木拓男教授(岡山大)、越野 寿先生(北医療大)の8名の先生方が参加されました。

Happy Smiles & Heartful Communication

**デンタルエステをはじめませんか**

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

**ハイスリッド セラミックス**  
**エステニア C&B**

■ 標準価格 スタンダードセット 128,000円  
● 医療機器承認番号 21500BZZ00534



MORITA

製造販売元 クラレメディカル株式会社  
販売元 **株式会社モリタ** 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL: 03-3834-6161  
大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL: 06-6380-2525  
● 掲載商品の標準価格は、2005年4月21日現在のものです。  
標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-plaza.com

一方、特別講演の講師として横山徹爾先生（国立保健医療科学院）に加え、水口 一先生（岡山大）、田上直美先生（長崎大）、竹内久裕先生（徳島大）の3名のシンポジストを迎え、スタッフとして、皆木省吾学術委員長、原 哲也先生（岡山大）、鱒見進一、有田正博、八木まゆみ、中村恵子、榎原絵理、白水仁大（九歯大）の8名が加わり総勢47名での開校となりました。

8月29日13:00に校長の鱒見より開校式が行われ、次いでファシリテータの田上先生より概要説明が行われました。参加者全員の自己紹介を行った後、座長の松香芳三先生（岡山大）のもとでシンポジウム「すぐれた臨床研究を考える」が開催されました。水口先生が「RCTを考える」、田上先生が「前向きコホート研究を考える」、竹内先生が「後ろ向きコホート研究を考える」と題する講演を行い、ディスカッションの後に各グループに別れてワークショップを行いました。17:00からは、横山徹爾先生による「ベイズ統計学の医学統計への応用」と題する特別講演がありました。難解な統計学を非常にわかりやすく解説し

ていただき、受講者一同感銘を受けました。

その後、各自別府の温泉を堪能し、懇親会が開催されました。原 哲也先生司会のもと、平井理事長の挨拶、皆木省吾先生の乾杯に続き9名の若手研究発表が行われ、オープンな雰囲気の中活発なディスカッションが行われました。懇親会終了後も興奮冷めやらず、各自部屋に戻った後も延々とディスカッションが続きました。

翌30日は8:30より水口、田上、竹内の各ファシリテータのもと、グループ毎のプレゼン準備に取りかかり、9:30より各グループの発表が行われました。横山先生にはそれぞれの発表に対して研究手法の指導をしていただき、今後の臨床研究に非常に参考となるものでした。

11:00の閉校式により、サマースクールを無事終了しました。参加者一同が臨床研究に意欲を燃やし、今後の我が国における臨床研究に貢献していただければと祈念しております。参加された皆様ならびに企画運営に携わっていただいた先生方に心より感謝いたします。

（ホームページ・ニュースレター部会 鱒見進一）



開校式



講演中の田上先生



横山先生の特別講演



閉校式



## 受賞者の声

(社)日本補綴歯科学会第 117 回学術大会  
課題口演コンペティション優秀賞



吉田有里（徳島大）

「インプラント治療のための小照射野歯科用 CT 装置における画像測定精度についての研究」

この度は、第 117 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞をいただき、大変光栄に思います。

本研究は、インプラント治療に小照射野歯科用 CT を応用する際に重要となる被曝線量と画像測定精度について検討した内容の一部です。被曝線量に関しては第 37 回日本口腔インプラント学会総会にて発表させていただきました。今回は画像測定精度について調査し、方向依存的に誤差が生じることや、条件によってはインプラントの本数および埋入位置の影響を受けることを報告いたしました。小照射野歯科用 CT の有用性は高いものと思われませんが、このように条件によって変化することが明らかになっていますので、最適な撮影条件を考案し、インプラント治療のガイドライン作成に役立てるために、今後も研究活動に精進していく所存です。

最後に、研究に際して御指導・御鞭撻をいただいた本学歯科放射線学分野菅田栄一教授ならびに本学口腔顎顔面補綴学分野市川哲雄教授をはじめとする諸先生方に心より厚く御礼申し上げます。



重光竜二（東北大）

「三次元有限要素法を用いたインプラントオーバーデンチャーにおける顎骨内応力の解析」

この度は日本補綴歯科学会第 117 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞を賜り、誠に光栄に存じます。

今回受賞の対象となった三次元有限要素法を用いたインプラントオーバーデンチャーにおける顎骨内応力の解析は、東北大学工学研究科土木工学専攻分野との共同研究として行われ、歯学分野と

工学分野の技術連携を最大限生かした生体シミュレーションといえます。私の所属する東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野では、生体とバイオマテリアルとのインターフェイスに着目し、バイオメカニクス・メカノバイオロジーに基づく研究をさまざまなステージで積極的に行っています。本研究は、生体に加わる咬合力とそれにより引き起こされる骨内における応力を解明する研究であり、教室において進行している一連の研究のなかで、インプラントと生体間のインターフェイスをバイオメカニカルな観点から解明し、バイオメカニカルなエビデンスに基づいたインプラント治療の確立を目指す研究に位置づけられています。

本研究における生体シミュレーション技術とシミュレーション結果をさらに発展させることにより、骨代謝に対して有利に働くようなインプラントの埋入位置・角度・本数などの決定が可能となると考えています。そして、より予見性の高い、患者個々の個体差を反映したオーダーメイド治療につながるものと期待しています。

今回このような先進的な研究テーマを与えていただき、また終始御指導くださった佐々木啓一教授、川田哲男先生、貴重な実験データを提供していただいた依田信裕先生、また今回の研究において有限要素解析のモデル化から解析に至るまでご協力いただいた、東北大学大学院工学研究科の池田清宏教授をはじめ同講座の諸先生方に心から御礼申し上げます。今後はこの受賞を励みとして、よりよい歯科治療のためにさらに研究を進めていきたいと考えています。



鈴木 祐（東北大）

「自家移植歯の咬合機能に関する研究」

この度は、第 117 回日本補綴歯科学会学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出していただき、大変光栄に思っております。大学院の研究テーマとして、今後の歯科臨床における補綴処置の指針の一つとしても大変興味深く進めてきた研究であっただけに感慨もひとしおであります。

自家移植歯の基礎実験，また臨床的知見において，自家移植歯の歯根膜再生機能による歯槽骨を含む歯周組織の回復は報告されており，自家歯牙移植の臨床術式はほぼ確立し良好な予後が得られていることがうかがわれます。しかしながら，自家移植歯の生理学的特徴についての知見はほとんどないため，咬合の付与様式や連結固定の必要性など補綴処置の指針は明確なものが存在せず，自家歯牙移植法を用いた部分欠損補綴治療を予見性の高いものにするために移植歯の咬合機能を検索し比較検討しました。結果，歯根膜感覚閾値は正常天然歯までの回復には至らないが，動揺度は正常天然歯と相違ない程度まで回復すること，また習慣性咀嚼側，主機能部位としても十分機能することがわかり，移植歯の咬合機能はドナー部のみならず移植部位にも由来することが推察されました。これらの知見は，移植歯に与える修復物の形態や咬合の付与様式，連結固定の必要性など自家移植歯に対する補綴装置設計指針の一助となるものと期待しています。

最後に終始ご懇篤なる御指導および御校閲を賜りました東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野の佐々木啓一教授に深甚なる感謝の意を捧げます。また，本研究の遂行にあたり，終始御教示，御指導頂きました東北大学病院附属歯科医療センター咬合回復科の小川 徹助教に厚く感謝申し上げます。



和田淳一郎（医歯大）

「音声認識による発語機能評価システムを用いた健常歯列者の発語分析」

この度は，日本補綴歯科学会第117回学術大会課題口演コンペティション優秀賞をいただき，誠に光栄に存じます。

本研究は，2003年より当講座が東芝社と共同で開発・研究を進めている音声認識による発語機能評価システムを用いて，健常歯列者の発語機能を分析したものです。補綴治療では咀嚼機能，審美性とあわせて発語機能の回復が期待されますが，その客観的な評価方法は特別な機器や検査室，また人数を要しチェアサイドでの評価には不向きなため，臨床の場では患者・術者双方の主観に

頼っているのが現状です。しかし，治療によるQOLの向上を目指すうえで，社会生活でコミュニケーションに不可欠な発語機能は重要なポイントになってきます。研究で用いた発語機能評価システムは，ノートパソコンとマイクがあれば患者の発語機能を客観的に評価することができます。今回，健常歯列者で本システムを用いて行った発語機能評価では，義歯装着者に対して行う評価の基準値の設定を一つの目的としております。今後，本研究のデータを参考に，本システムを用いて可撤性部分床義歯の大連結子のデザインを変えた際にどのような影響が出るかについて調査を行おうと考えております。本システムは，研究と並行して実用化へ向けて準備を進めており，近い将来，皆様の臨床の一助になっていくものと期待しております。

最後に，本研究の機会を与えて下さいました東京医科歯科大学部分床義歯補綴学分野の五十嵐順正教授，秀島雅之先生，静岡県立大学経営情報学部の松浦 博教授をはじめ，本研究の礎を築いてくださった当講座の先生方に心より感謝いたしますとともに，研究に協力していただきました先生方に厚く御礼申し上げます。



中島純子（防衛医科大）

「神経筋疾患患者の嚥下障害に対する舌接触補助床の効果」

この度は，第117回学術大会課題口演コンペティション優秀賞に選出していただき，誠に光栄に存じます。

NC VERACIA

ナノテクノロジーと  
機能的形態が融合した 新人工歯

# NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

**NC ベラシア アンテリア**

硬質レジン歯(前歯用) 1組…¥780

医療用具承認番号 21200BZZ00272

**NC ベラシア ポステリア**

硬質レジン歯(臼歯用) 1組…¥1,040

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

SHOFU

硬質レジン歯

色調：A1、A2、A3、A3.5、B2  
形態：上顎5形態、下顎3形態

色調：A2、A3、A3.5、B2  
形態：上下顎各2種

世界の歯科医に愛される  
**株式会社 松風**  
本社 ● 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11-TEL.(075)561-1112(代)

本研究では、口腔内器官の欠損を伴わない神経・筋疾患に起因する嚥下障害患者に対して舌接触補助床を製作し、嚥下機能の改善を咽頭圧と嚥下造影検査で評価、解析をいたしました。神経・筋疾患患者では、筋力の低下や易疲労性により咽頭収縮力の低下や舌根部の後方運動の減弱が認められ、嚥下障害が生じます。口蓋の前方部を肥厚させた口蓋床を装着することにより、食塊の移送に必要な舌の固定（アンカー機能）を補強することができ、舌根と咽頭後壁の接触時間と舌根部の咽頭圧の増加が認められたことを報告いたしました。

本研究は耳鼻科医や言語療法士の「舌のアンカーを強調できる何か装置、考えられない？」の一言から発しました。われわれ、補綴に携わる者にとっては容易な技術が功を奏し、チーム医療の重要性を実感するとともに、適応症例や適応の限界などの探究・提示の必要性も感じております。今後も研究活動に邁進したく存じます。

最後に、本研究の機会を与えて下さいました佐藤泰則教授、数多くのご指導をいただきました杏林大学耳鼻咽喉科学講座の唐帆健浩講師に厚く御礼申し上げます。



末廣史雄（広島大）  
「間葉系幹細胞の骨分化に関わる転写調節関連遺伝子の探索」

この度は、日本補綴歯科学会第117回学術大会課題口演コンペティション優秀賞に選出していただき誠にありがとうございます。

本研究では、間葉系幹細胞の骨分化初期に特異的に発現する転写調節因子の探索を行い、12個の遺伝子を同定しました。このなかの11個の遺伝子は間葉系幹細胞の骨分化に関与するとの報告はなく、その機能を解析することは間葉系幹細胞の骨分化メカニズムを解明する一助となり、ひいては間葉系幹細胞を用いた移植医療の科学的根拠を得ることに繋がります。

現在、間葉系幹細胞を用いた骨再生治療の臨床応用が始められていますが、細胞株によっては骨分化能が低いこともあり、そのことが移植医療の

失敗の原因の一つであると考えられます。骨分化能の判定のためには長期間の細胞培養が必要であり、医療の現場においてはより短期間での判定が望ましいといえます。そこで本研究で同定した転写調節因子を、間葉系幹細胞の骨分化能を予知するマーカーとして、今後の骨再生治療での移植細胞の品質保証に用いることが期待されます。

最後に、現在は東北大学にてご活躍中の濱田泰三教授を始め、直接研究の指導をしてくださった西村正宏先生、数多くの助言をいただいた先生方に心から厚く御礼申し上げます。

(社)日本補綴歯科学会第117回学術大会  
優秀ポスター賞 (DENTSPLY Award)



篠宮摩弥子（日大松戸）  
「アクリル系軟性裏装総義歯の咀嚼に及ぼす臨床効果の研究—無作為割付臨床試験による検討」

この度は、第117回学術大会におけるデンツプライ賞の受賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、2004年から神奈川歯科大学との2施設大規模調査による、長期使用型軟性裏装材使用総義歯に関するランダム化割付臨床試験(RCT)のなかでの検討の一部である、アクリル系軟性裏装材使用総義歯患者の咀嚼効率と咀嚼時の顎機能への影響について報告しました。

軟性裏装材使用総義歯の治療は、インプラントの適用が困難な難症例の無歯顎患者に対し、広く適用可能な治療法であり、臨床現場で広く普及しています。しかしながら臨床効果に関する科学的根拠は少ないのが現状です。RCTによる結果は、最もエビデンスの高い実証結果とされ、的確な治療法の選択への一助になることと思います。

最後になりますが、このような機会を与えていただきました日本大学総合科学研究所小林喜平教授、神奈川歯科大学豊田 實教授、ならびにご指導いただきました神奈川歯科大学木本克彦教授に感謝するとともに、終始ご指導を賜りご教示いただきました当教室木本 統講師に厚く御礼申し上げます。また、両大学において本研究に携わり協力していただいた諸先生方と被験者の皆様に心よ



り感謝申し上げます。

今後も、臨床、研究活動を通し社会へのさらなる貢献にいそしむ所存です。



大久保 舞 (医歯大)

「全部床義歯の装着が無歯顎者の身体平衡に及ぼす影響」

この度、第 117 回学術大会デンツプライ賞に選出していただいたことを大変光栄に思います。

昨今、高齢者の寝たきりが問題となっていますが、その原因として転倒が大きな割合を占めています。転倒のほとんどはつまずきや滑りなどの予期せぬ刺激が加わったときに起こり、歩行の不安定さや姿勢保持の悪さと深く関係していると思われまます。咬合回復により姿勢や筋力発揮が改善するという報告は頻繁に見受けられますが、動作時、特に歩行という日常動作中での影響に着目したのが本研究です。義歯の装着、非装着は歩行という全体の運動からすればかなり微細な変化といえるでしょう。そのなかで義歯を装着しているほうが安定性を表す指標が改善傾向を示したという結果は、義歯を装着することそれ自体が高齢者の QOL の維持、向上に一役買うものと考えられます。

最後に、本研究の機会を与えて下さった早川巖名誉教授、御指導下さった水口俊介教授、藤波由希子先生、いつも快く協力して下さいる教室員、支えて下さった多くの方々に心より御礼申し上げます。



完山 学 (岡山大)

「Sclerostin の生物学的骨質評価マーカーとしての可能性—骨成熟過程における局在と遺伝子発現—」

このたびは、第 117 回学術大会優秀ポスター賞 (DENTSPLY MERIT Award) を受賞させていただき、たいへん光栄に存じます。

最近、即時荷重型インプラントが飛躍的に普及し、多くの患者様が治療期間の短縮の恩恵を受け

始めています。しかし、術前の CT やエックス線等の検査で即時荷重を予定していても、実際のインプラント埋入トルク値が低いために即時荷重を断念するケースにしばしば遭遇します。本研究は、こうした問題点を解決するために術前に骨質を正確に診断するための生物学的骨質評価マーカーをみいだすことにあります。今回の研究結果では、骨硬化症の原因因子である Sclerostin が骨質を評価するための生物学的マーカーとなりうる可能性が明らかとなりましたが、実際の臨床現場で用いるにはまだまだ未解決な部分が山積みになっています。本賞の受賞を励みに今後も本研究を継続して行い、その成果を社会に還元できるように邁進する所存です。

最後に、本研究の機会を与えて下さいました岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野の窪木拓男教授をはじめ、ともに実験を行い、現在、米国 Thomas Jefferson 大学に留学中の下野賢吾先生、そして数多くの助言をいただいた当教室の先生方に厚く御礼申し上げます。

## 支部学術大会報告

平成 20 年度九州支部、中国・四国支部合同学術大会

平成 20 年 8 月 30 日 (土)、31 日 (日) 大分県別府市ピーコンプラザにおいて、大分県歯科医師会会長の丸尾道彦大会長のもと、平成 20 年度 (社) 日本補綴歯科学会九州支部、中国・四国支部合同学術大会が開催されました。本大会のメインテーマは「咬合・咀嚼が創る健康長寿」とし、主管校は九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野、実

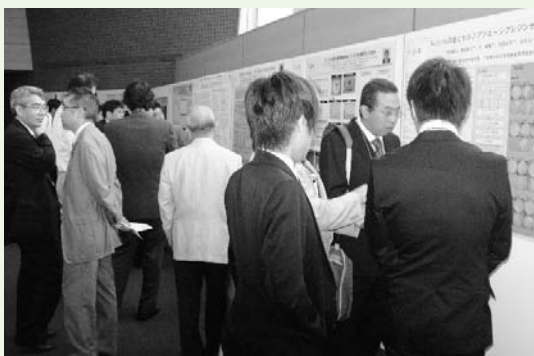
**GC**

ジーシーインプラントシステム™ Re (アール・イー)™  
2つのシステムが臨床の幅を広げます。

GC IMPLANT SYSTEM Re  
external implant  
**SETio**   
internal implant  
**GENESio**

高度管理医療機器 2100402Z00068000 ジーシーインプラント  
高度管理医療機器 214008Z00102000 ジーシーインプラント Re  
高度管理医療機器 214008Z00068000 ジーシーインプラント Re

株式会社 ジーシー [www.gcdental.co.jp/](http://www.gcdental.co.jp/)



ポスターセッション



特別講演1：濱田泰三先生



特別講演2：熱田 充先生



感謝状授与：古賀大分県歯科医師会  
副会長，平井理事長



DEVIL GIRLS



鐵心太鼓



生涯学習公開セミナー1：  
和田 信先生，窪木拓男先生



生涯学習公開セミナー2：  
近藤康弘先生



市民フォーラム：瀬口清文先生，  
津賀一弘先生



閉会の辞：安東俊介先生



行委員長は鱒見進一(九歯大), 皆木省吾(岡山大), 準備委員長は安東俊介(大分市), 有田正博(九歯大), 貞森紳丞(広島大)の各先生でした。

30日13:30より, 3会場で丸尾先生(代理:古賀聖規副会長), 鱒見先生, 皆木先生による開会の辞の後, 第1会場, 第2会場では一般口演22題, 第4会場では専門医認定申請ケースプレゼンテーション7題の発表が行われました。これらが終了した後, 第3会場においてポスター9題の発表が行われました。いずれも活発な質疑応答が行われ有意義でした。

17:00からは, 濱田泰三先生(東北大)による「高齢者の義歯」および熱田 充先生(元長崎大)による「補綴に役立つ有機材料」の2つの特別講演が行われ, 各先生方の長年にわたる豊富な臨床経験に基づいた興味深い講演を拝聴することができ, 聴講者一同感銘を受けました。

19:00からはレセプションホールにおいて懇親会が執り行われました。古賀大分県歯科医師会副会長, 平井敏博理事長, 皆木中四国支部長, 鱒見九州支部長の挨拶の後, 平井理事長より大会長へ感謝状の授与が行われました。古谷野副理事長の乾杯で300名を上回る参加者の懇親会がスタートしました。アトラクションでは, 地元別府を代表するプロバスケットボールチーム「大分ヒートデビルズ」のダンスチーム「DEVIL GIRLS」によるダンスパフォーマンス, 大分市が世界に誇る「鐵心太鼓(てっしんだいこ)」の公演が催され, 参加者一同興奮と感激に包まれ大盛況でした。

翌31日は, 8:30より九州支部総会, 中国・四国支部総会に続き, 生涯学習公開セミナー1「顎関節症に対する開業医の取り組み」座長:古谷野潔(九州大), 講師:和田 信(中津市), 窪木拓男(岡山大), 生涯学習公開セミナー2「接着ブリッジの臨床」座長:貞森紳丞(広島大), 講師:近藤康弘(倉敷市), 市民フォーラム「噛むことの大切さ」座長:市川哲雄(徳島大), 講師:瀬口清文(大分市), 津賀一弘(広島大)の各先生の講演が執り行われました。生涯学習公開セミナーでは多くの一般開業医の先生方の参加をいただき, また, 市民フォーラムでは多くの近隣の一般市民, 歯科衛生士の方々の参加を得ました。

安東俊介準備委員長による閉会の辞で無事成功裡に幕を閉じました。今回の九州支部, 中国・四

国支部合同学術大会は, 400名近い参加者を得て非常に有意義な大会でした。

(九歯大 楨原絵理)

## 関連学会案内

### 第129回日本歯科保存学会学術大会

日時:平成20年11月6日(木), 7日(金)  
会場:富山国際会議場  
大会長:千田 彰(愛知学院大学歯学部保存修復学講座)

連絡先:〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9  
(財)口腔保健協会コンベンション事業部内  
日本歯科保存学会2008年秋季学術大会(第129回)運営事務局  
Tel:03-3947-8761  
Fax:03-3947-8873  
E-mail:jscd129@kokuhoken.or.jp  
<http://www.kokuhoken.or.jp/jscd129/>

### 第21回日本歯科医学会総会

日時:平成20年11月14日(金)~16日(日)  
会場:パシフィコ横浜  
大会長:大塚吉兵衛(日本大学歯学部生化学)

連絡先:〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-20 日本歯科医師会内  
第21回日本歯科医学会総会準備委員会  
Tel:03-3262-9214  
Fax:03-3262-9885  
E-mail:jads2008@convention.co.jp  
<http://www.jads.jp/21stGM/>

### 日本バイオマテリアル学会シンポジウム2008

日時:平成20年11月17日(月), 18日(火)  
会場:東京大学本郷キャンパス  
大会長:片岡一則(東京大学大学院工学系研究

科・医学系研究科)

連絡先：〒 113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻片岡研究室内  
日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2008 事務局  
Tel : 03-5841-1654  
Fax : 03-5841-7139  
<http://www.bmw.t.u-tokyo.ac.jp/jsbsympo08/>

**第 4 回国際歯科技工学術大会・  
第 30 回日本歯科技工学会学術大会**

日 時：平成 20 年 11 月 21 日(金)～23 日(日)  
会 場：大阪国際会議場  
大会長：末瀬一彦 (大阪歯科大学歯科技工士専門学校)

連絡先：〒 541-0042 大阪府中央区今橋 4-4-7 京阪神不動産淀屋橋ビル 4 階  
日本コンベンションサービス(株)  
関西支社内  
Tel : 06-6211-5933  
Fax : 06-6221-5938  
E-mail : 4thicdt@convention.co.jp  
<http://www.nadt.jp/30th/info.html>

**第 26 回日本歯科東洋医学会学術大会**

日 時：平成 20 年 11 月 29 日(土), 30 日(日)  
会 場：タワーホール船堀  
大会長：片山 直 (明海大学歯学部保存修復学分野)

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9  
(財)口腔保健協会コンベンション事業部内  
第 26 回日本歯科東洋医学会学術大会運営事務局  
Tel : 03-3947-8761  
Fax : 03-3947-8873

E-mail : [gakkai1@kokuhoken.or.jp](mailto:gakkai1@kokuhoken.or.jp)  
<http://www.jdtoyo.net/>

**日本環境変異原学会第 37 回大会**

日 時：平成 20 年 12 月 4 日(木)～6 日(土)  
会 場：沖縄コンベンションセンター  
大会長：林 真 (財団法人食品農医薬品安全性評価センター)

連絡先：〒 650-0033 神戸市中央区江戸町 85-1 ベイ・ウイング神戸ビル 10 階  
(株)プロアクティブ内  
Tel : 078-332-2505  
Fax : 078-332-2506  
E-mail : [jems2008@pac.ne.jp](mailto:jems2008@pac.ne.jp)  
<http://www.pac.ne.jp/jems2008/>

**第 11 回日本歯科人間ドック学会学術大会**

日 時：平成 20 年 12 月 5 日(金), 6 日(土)  
会 場：九州大学コラボ・ステーション I  
大会長：樋口勝規(九州大学病院口腔総合診療科)

連絡先：〒 812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 九州大学病院口腔総合診療科内  
第 11 回日本歯科人間ドック学会学術大会事務局  
Tel : 092-642-6488  
Fax : 092-642-6520  
E-mail : [jadhd2008@dent.kyushu-u.ac.jp](mailto:jadh2008@dent.kyushu-u.ac.jp)  
[http://www.jddock.net/file/pdf/taikai\\_11th.pdf](http://www.jddock.net/file/pdf/taikai_11th.pdf)

**第 27 回日本接着歯学会学術大会**

日 時：平成 21 年 2 月 21 日(土), 22 日(日)  
会 場：仙台市福祉プラザ  
大会長：小松正志 (東北大学大学院歯学研究科歯科保存学分野)

連絡先：〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1  
東北大学大学院歯学研究科歯科保存学分野

第 27 回日本接着歯学会学術大会事務局  
Fax : 022-717-8344  
<http://www.adhesive-dent.com/>

### 第 8 回日本再生医療学会総会

日 時 : 平成 21 年 3 月 5 日 (木)・6 日 (金)  
会 場 : 東京国際フォーラム  
大会長 : 坪田一男 (慶應義塾大学医学部眼科学教室)

連絡先 : 〒 100-0013 東京都千代田区霞が  
関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階  
日本コンベンションサービス(株)内  
Tel : 03-3508-1278  
(平日 10:00~17:00)  
Fax : 03-3508-1302  
E-mail : 8jsrm@convention.co.jp  
<http://www2.convention.co.jp/8jsrm/>

### 第 82 回日本細菌学会総会

日 時 : 平成 21 年 3 月 12 日 (木)~14 日 (土)  
会 場 : 名古屋国際会議場  
大会長 : 太田美智男 (名古屋大学大学院医学系研究科)

連絡先 : 〒 466-8550 名古屋市昭和区鶴舞  
町 65  
名古屋大学医学系研究科分子病原細菌学気付  
第 82 回日本細菌学会総会準備事務局  
E-mail : jsb82@med.nagoya-u.ac.jp  
<http://www.nacos.com/jsbac/02-5-2soukai82.html>

### 第 114 回日本解剖学会全国学術集会

日 時 : 平成 21 年 3 月 28 日 (土)~30 日 (月)  
会 場 : 岡山理科大学  
大会長 : 佐々木順造 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科細胞組織学専攻分野)

連絡先 : 〒 700-8558 岡山市鹿田町 2-5-1  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
細胞組織学専攻分野  
Tel : 086-235-7081  
Fax : 086-235-7079  
E-mail : anato114@md.okayama-u.ac.jp  
<http://www.convention-w.jp/jaa-114/>

## 編集後記

ニュースレター No. 30 では、新しく生まれ変わる学会誌をメインに報告いたしました。IF 取得に向けて会員一同のご協力をお願いいたします。また、私が関連したサマースクールおよび合同支部学術大会を掲載させていただきました。サマースクールは今回で 2 回目ですが今後いろいろな場所で開催されることを願っております。他支部との合同支部会も非常に有意義であり、各支部で企画されることをお勧めします。

(広報・社会連携委員会、ホームページ・  
ニュースレター部会長 鱒見進一)

今回の記事にありますように、多くの若い先生方が生き生きと歯科補綴学を論じているのを拝見して頼もしく感じました。補綴の矜持を紙面で伝えていけたらと思います。皆さんよろしく願いたします。

(広報・社会連携委員会委員長  
広報・社会連携部会長 川良美佐雄)

社団法人 日本補綴歯科学会  
広報・社会連携委員会  
委員長 川良美佐雄  
広報・社会連携部会  
部会長 川良美佐雄 副部会長 水谷 紘  
委員 池邊一典 岡根秀明 貞森紳丞  
幹事 小見山 道  
ホームページ・ニュースレター部会  
部会長 鱒見進一 副部会長 塩山 司  
委員 齋藤正恭 坂井貴子 田中昌博  
幹事 有田正博  
Tel : 093-582-1131  
Fax : 093-582-1139  
E-mail : m-arita@kyu-dent.ac.jp  
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1  
九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野



# 写真公募！

「補綴（ほてつ）シャッターチャンス！ 2008」

## 「補綴～ほてつ～のある風景」

（社）日本補綴歯科学会では、トップページに掲載します「補綴（ほてつ）シャッターチャンス」の写真を本年度も公募することにしました。多数のご応募をお待ちしております。

### 募集期間

2008年12月末日必着

### 応募のテーマ

#### 「補綴～ほてつ～のある風景」

- ・ 補綴にかかわる人，光景
- ・ 補綴から連想される物
- ・ 人物，笑顔，口元
- ・ 歯科医師，歯科スタッフ，患者様，学生  
（加工写真，イラスト等もOK！）

### 応募作品

ご自身でお撮りになった物，または作成した物に限らせていただきます。

### 作品規格

Jpeg形式データ（250×500mm，72ppi以上）または，カラー，モノクロプリント写真，組写真，加工写真も可。なお，すべて横写真に限ります。

### 応募方法

以下の必要事項を記入し，封書またはメールにてお送りください。お送りいただく写真の裏には氏名を明記してください。

お名前

ご連絡先

電話

作品タイトル

作品の説明

### 著作権

作品の著作権は（社）日本補綴歯科学会に帰属します。なお，使用できるよう被写体の権利処理を行っていただきますようお願いいたします（被写体が人物の場合は承諾や使用許可をお取りください）。

### 作品の返却

返却はいたしません。

### 審査

（社）日本補綴歯科学会広報・社会連携委員会が行います。

なお，応募いただきました写真は，後にHP上で公開し，ギャラリーとしてお楽しみいただけるよう計画しております。

応募先：E-mail：koho.jps@nihon-u.ac.jp

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9

駒込 TSビル 302

（社）日本補綴歯科学会

広報・社会連携委員会